

命がけの SOS が世界を動かした

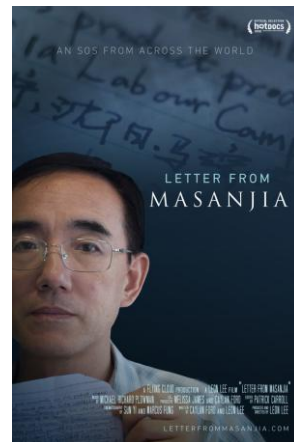
人権迫害を続ける中国の現在を明かすドキュメンタリー緊急公開！

マ サンジャ

『馬三家からの手紙』映画上映付きシンポジウムのお知らせ

アメリカで見つかった中国からの命がけの一通の手紙が、今なお続く強制労働施設の実態を明らかにしたドキュメンタリー映画『馬三家からの手紙』を3月21日(土)より劇場公開いたします。

2012年、米オレゴン州で見つかった中国からのSOSの手紙が国際的なトップニュースになった。中国系カナダ人監督レオン・リーは、この事件に関心を抱き、中国の活動家らとの独自のネットワークを通して、その手紙の主である孫毅との接触に成功。ふたりはスカイプ上で連絡を取り合い、当局の圧力に苦しみながらも製作。本作は想像を絶する実態を明らかにし、世界中の映画祭で高く評価された。現在、頻繁に報道されるウイグル自治区の再教育施設の問題などとも重なるだろう。



このたび、監督のレオン・リーの来日が決定し、映画上映付きシンポジウムを開催する運びとなりました。

シンポジウム当日は、作品を上映後、監督、識者とともに本ドキュメンタリーを素材に「中国と人権問題」について考える。どうぞ奮ってご参加ください。

【日程】2月15日(土) 14:30～17:00 (14:00 開場)

【会場】東京大学駒場キャンパス KOMCEE KO11 (目黒区駒場 3-8-1)

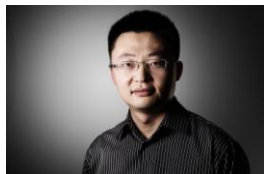
【登壇】レオン・リー／若林秀樹(国際協力 NGO センター事務局長)／水谷尚子(明治大学准教授)

【司会】阿古智子(東京大学准教授)【通訳】鶴田ゆかり(ETAC 国際ネットワーク)

入場無料、要申込(先着順、定員 200 名)

※参加希望の方は、下記メールアドレスへ氏名、職業、人数、連絡先(メールアドレス)を明記の上、ご連絡ください。

※取材ご希望の場合は下記メールアドレスご一報ください。簡単なフォームに記入が必要となります。



レオン・リー (LEON LEE) 中国での人権侵害をテーマとするカナダの映画制作者。8 年かけて製作したデビュー作『人狩り 中国の違法臓器売買』で、米放送業界における最も権威あるピーボディ賞、国際放送協会の調査ジャーナリズム賞を受賞。『馬三家からの手紙』は 2018 年、北米最大のドキュメンタリー映画祭 Hot Docs でプレミア上映し、以降、世界の映画祭で多数の賞を獲得している。言語と文化を越えて共鳴する個人的な真実の話をスポットライトを当て、声なき人々が声を上げる機会をもたらすことを映画制作者としての目標に掲げている。

プログラム

14:00 開場

14:30『馬三家からの手紙』上映(76分)

15:45 休憩

16:00 シンポジウム

17:00 終了予定

『馬三家からの手紙』

Story : 米オレゴン州に住む女性ジュリー・キースがスーパーで購入した「中国製」ハロウィーン飾りの箱に忍び込んだSOSの手紙。それは、政治犯として捕らえられた孫毅が、中国で恐怖の城とも言われた馬三家労働教養所の中で書いたものだった。そこには信念のために収監され、拷問・洗脳される実態が事細かに記されていた……。

監督・製作 : レオン・リー 撮影 : 孫毅, Marcus Fung 出演 : 孫毅, ジェリー・キース, 江天勇 (ジャン・ティエンユ)

2018 年 / カナダ / 76 分 / カラー / 原題 : Letter From Masanjia

配給 : グループ現代 協力 : 外リ・モリ エイジェンシー

©2018 Flying Cloud Productions, Inc.

2020 年 3 月 21 日(土) 新宿 K's cinema ほか全国順次公開

主催 : グループ現代、東京大学現代中国研究拠点

【パブリシティ・お問い合わせ】 : グループ現代 03-3341-2863 dist@g-gendai.co.jp